

# なすび

第35号

目次

1p~2p 1年目の決意  
2p~3p 部活動報告  
3p~4p 行事報告

今後の予定  
編集後記

栃木県那須学園  
〒329-2132  
矢板市沢800  
TEL 0287-43-0573  
FAX 0287-43-6886  
メール nasu-gakuen  
@pref.tochigi.lg.jp  
発行日 令和2年10月30日

はじめに

令和二年度はコロナ禍の渦中から始まりました。那須学園の子供達は学園の敷地内で生活しているため感染のリスクは低いのですが、危機感も感じていない様子です。一方、学園で働く職員は学園内にコロナ禍を持ち込まないよう日常生活でも細心の注意を払って生活しています。児相を始め外部の大人の出入りも可能な限り減らし、面会するご家族にも御協力頂いております。

今年度は学園での行事も大幅に変更になりました。毎年、沢地区の皆さんと一緒に汗した合同運動会の中止をはじめ、遠足、海浜学校、各部活動の関東大会も中止となりました。様々な制約が増える中で子供達に少しでも有意義な体験をしてもらうにはどうしたら良いか、各部活動は練習試合、模擬大会などを開催。学園祭は例年と形を変えて開催するなど、手探りしながら奮闘中です。

皆様方もコロナ対応でご苦労なされていると思いますが、この困難な時期を無事乗り切れることを御祈念申し上げます。

今年度初めて那須学園へやってきた先生方も半年が過ぎました。どんな感想を抱かれたのでしょうか。

「二年目の決意をいただきました。」

○宇梶 良平(男子一寮)

那須学園に戻ってきて既に半年が経過しました。久しぶりの交替制勤務は、四月はじめの頃は体調や生活リズムを整えることに苦労しましたが、最近は慣れてきたように思います。至らない自分を優しく受け入れてくださっている寮の先生方、子供達にはとても感謝しています。今とはにかく、男子第一寮の一員として早くみんなに認めて貰えるようにと考えながら、生活しています。

寮では、毎日毎日、何かしらの問題が起きていて、勤務の度に、今日は何が起きることが起きているだろうか、と、どきどき？ひやひや？しながら通勤しています。そして、いざ一寮の子供達を目の前にすると、この子供達が二度と学園に戻ってくることが無いようにするにはどうしたら良いかということを考えさせられます。単純明快な答えがあるとは思えませんが、これからも、少しでも手助けができるように考えながら、那須学

園で働いていきたいと思っています。今後とも、よろしく願います。

○小鍋 良和(女子寮)

那須学園に戻ってきて半年が経過しました。四月一日、男子寮の経験しか無かった私でしたが、初めての女子寮担当となり、不安と楽しみが入り混じった気持ちで那須学園に出勤したことを、つい先日のように感じております。今年度は新型コロナウイルス感染症が流行し、初めての経験に現場は四苦八苦しながらも、子供達の安全を守りつつ、子供達に何が出来るのか、職員が一丸となって考え、日常生活に反映させている状況が続いています。私個人としては、バレーボール、陸上部顧問、中卒児担当、全体作業担当と様々な主担当を任せられ、久しぶりの学園生活で作業、運動等、健康的に子供達と日々過ごしている状況で、8kgの減量に成功。これからもWithの精神を大切に、「心は大きく、体は小さく」を目標として子供達の支援にあたりたいと思います。

○片岡 美咲(女子寮)

那須学園に配属されて半年が経ち、やっと学園での生活の全体像や子供達の個性が見えてきました。四月の頃と比べると子供達から「話したいです」と相談を持ちかけられることも増えてきました。人間関係に関する相談が多く、私なりに一生懸命向き合っており、私なりに一生懸命向き合っており、うまく解決しないこともあり、集団生活のなかで全体の調和を重んじつつ、個を大切にすることへの難しさを感じる日々です。子供達との関わりは一筋縄ではいかず四苦八苦していますが、一方で子供達と接する中でハツと気付かされることや学ばされることも多くあります。私自身も子ども達と一緒に成長しつつ、自分にも何かやれることがあると信じて今後もあきらめずに頑張りたいと思います。今の自分に満足せず、日々精進していきますので、今後ともよろしく願います。



船山 恭介（沢分校）

ここでの勤務も半年を過ぎ、徐々にではありますが、日々の生活にも慣れてきました。

自然環境に恵まれたこの学校は、空の高さや、風の流れて季節を感じ取ることが出来ます。また、土いじりが好きな私には、様々な農業体験ができることも嬉しいことです。

諸事情を抱えながら、本学にやってくる子供達を、陰に陽に支援する那須学園の先生方には、頭が下がります。また、試行錯誤の中で、前に進もうとしている沢分校の先生方にも、同じ教員として刺激を受けています。

今後、及ばずながら一つの歯車として機能できるよう、頑張りたいと思います。

○豊田 悠樹（沢分校）

分校に勤務して約半年が経ちました。年度当初は、今までの職場とは全く異なり戸惑いばかりでした。生徒指導や学習指導、他校務に渡り、これまでやってきたことが通用せず、新たな気持ちで学ぶ姿勢を第一に職務にあたってきました。少しずつではありますが、日々の職務に慣れつつあります。

私は学習指導担当として、分校の意義は学力向上にあると考えます。

更には、「学ぶこと」できないことをできるようにすること「幸せになること」と思います。現在、約二十名

の子供達がいますが、一人一人の子供達が真剣に授業を受け、それぞれ目の前のことに精一杯取り組んでいます。我々もワンチームとなり、全員で一人一人の指導に当たることです。それぞれが目標実現のために努力できよう支援していきたいと思えます。

○古口 悟史（沢分校）

分校に勤務して半年が経とうとしています。今年は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、分散登校の実施や多くの行事が中止や延期を余儀なくされました。子供達と関わる機会が少なくなりました。これは非常に残念でなりません。しかし、野球大会や水泳大会など、普段と違う生き生きとした子供達の姿が印象的でした。また、学園祭での吹奏楽の演奏は、全く楽器が吹けなかった子供達の演奏が曲として聞けるようになっていくことに驚かされとても感動しました。

日々の授業や行事、部活動などを通して、子供達の成長につながるような関わりをもつことを意識し、自らの成長にもつなげていけるよう精進していきたいです。

## ☆部活動報告☆

☆水泳部

今年度の関東少年水泳大会が新型コロナウイルス感染症拡大防止の

ために中止になり、例年のように大会に向けた目標を設定することはできませんでしたが、男女とも「自分に負けない」、「四泳法をマスターする」という大きな目標を設定し、全員が目標を達成するべく頑張つて取り組みました。部活開始当初は、泳げない、泳いだ経験がないという児童が大半のため、水に慣れるところから始めました。息継ぎや、泳ぎ方が難しいからと、自分に負けそうになる児童がいましたが、全員で全員を励まし、約一か月の練習で、なんとか二五メートルですが四泳法を泳げるまでに成長しました。そんな中、関東少年水泳大会の記録会が開催される事が決まり、今度は記録会という目標ができ、気持ちが一層盛り上がりました。記録会当日は、隣に他の関東の施設の児童が泳いでいると思つて、自分に負けないという目標を達成しようと励まし泳がせました。一人の児童のために全員が応援する姿は、例年の関東少年水泳大会のように大いに盛り上がりました。水泳部の活動を通して心も体も一回り大きくなりました。

今年度は各施設が集まつての水泳大会はできませんでしたが、記録会を開催できたこと、この場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

☆バレーボール部

十月二二日に国立きぬ川学院に

て開催されたバレーボール親善試合に参加してきました。今年度は那須学園が開催県として関東大会を行う予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で、関東大会が中止となりました。子供達の練習の成果を披露する場が無くなってしまつてしまつてしまつたが、各施設、各職員の方々に支えられ、那須学園、きぬ川学院、群馬学園の3チームによる親善試合を実施することができ、子供達にとつて大きな経験を積むことができたことに感謝の気持ちで一杯です。

さて、その令和2年度那須学園女子バレーボール部は、昨年度の経験者が誰もいない状態でのスタートとなりました。4月から水泳部が始まる6月末までの前期のバレーボール部では、体力作りと基礎練習を繰り返して行いました。始めのうちはボールの扱いが不安定で、まともに相手にレシーブを返すことができず、ボールを触っている時間より、ボールを拾いに行っている時間の方が多かつた子ども達でしたが、次第にボールの扱いが上手になっていきました。水泳部を挟み、後期のバレーボール部では、実践形式の練習を中心に行い、徐々にバレーボールらしい形になっていきました。生活の中の失敗等により部活に参加することが出来ない子供が日替わりで出ていたこともあり、全員が揃つて練習できる日があまり取れなかつたことは残念でしたが、親善試合の日が近づくに

連れて、子供達の気は高まっています。親善試合では、子供達は元気な声が出ていたものの、緊張で表情や体の動きが硬く、初戦の群馬学園戦はセットカウント0:2で敗戦。気持ち沈みかけたところを何とか堪え、最終戦のきぬ川学院戦では、1セット目を落とすも、2セット目を取り返し、最終セットも続けて取って勝利することが出来ました。親善試合前の職員戦を含めて初勝利を果たした子供達は喜び、涙を流す子供もいました。結果は準優勝という形で今年度のバレーボール部は終了となりましたが、この活動経験が子供達にとって大きな財産となることを職員として心から願っています。

#### ☆吹奏楽部

六月から始まった吹奏楽部は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの制限の中で練習を続けてきました。ソーシャルディスタンスを保った体育館での練習や、パートごとの少人数での練習など、工夫をしながら活動し、暑かった夏を乗り越えました。

九月に行われた学園祭では、日頃お世話になっていた分校の先生や学園の先生に向けて、子供達だけで『君の瞳に恋してる』を演奏しました。

「那須学園の吹奏楽部は、子供と職員が一緒に演奏することが醍醐味です！」と豪語してきましたが、いざ

子供達だけで演奏してみると、意外にも上手に吹けるものです。これは大人が入らない方が上手か：？とも思いましたが、後日合奏してみるとやはり先生方がいた方が安心感のある良い音色でした。もう少し、子供と職員で頑張っていけます。

#### ☆陸上部

九月二日より那須学園男子陸上部の活動がスタートしました。本年度は六名の「勇士達」が陸上部を志願しました。部員全員で「心と体を鍛える陸上部」という目標を掲げ頑張っています。勇士達が集まった陸上部ですが実践練習(本練習)にいきつくまでに「練習のための心の準備」、「練習のための体の準備」、「練習のたながら活動をしています。子供達は活動の動きや、心の働きを模索するように取り組んでいます。また走ることで無く心身の調整や、身体のリフレッシュ、心と体の調和を図るような活動を取り入れ、今までは経験したことのない感覚を感じてもらおうと職員側でも模索をしています。

#### ☆卓球部

今年も九月から卓球部がスタートしました。例年ですと、前年経験者が数名、卓球経験も数名とある程度のレベルからのスタートになったのですが、今年はこちらも2名しか

おらず、総勢十一名のうちほとんどが初心者ということになりました。それでもわずか一ヶ月の練習で子供達も見違えるほど上達してきました。その成果を発揮する大きな大会がないということは残念の一言に尽きますが、技術だけではなく心も成長出来るような活動をこれからもしていきたいと思っています。

## ☆行事報告☆

#### ☆流しそうめん会

七月三十一日

七月三十一日(金)那須学園恒例の流しそうめん会が行われました。学園の敷地内で採れた竹を使つての本格的な流しそうめんです。例年であれば、子供達全員が集まり、分校の職員も一緒にやって行われる行事ですが、今年度は新型コロナウイルスの影響で、各寮での開催となりました。規模は縮小となりましたが、子供達は楽しそうに参加しており、流れてくるそうめんが上手に取れずに戸惑っていた子供達も、箸の使い方に気付いて慣れてくると上手に取れるようになっていきました。付け合わせの天麩羅はエビ、茄子、かき揚げ。こちらも大好評。ランチルーム職員の御協力の下、今年の流しそうめんも大成功でした。本当にありがとうございます。

#### ☆那須学園杯水泳大会

八月二八日

八月二八日に栃木県立温水プール館にて那須学園独自の水泳大会を開催しました。今年度関東少年水泳大会が中止になったため、子供達へ活躍できる場所を提供したいという思いから計画したものです。

大会当日は個人の部と寮対抗の団体戦を行いました。今年度水泳部では四泳法をマスターするという目標を掲げて取り組みましたので、個人戦では全員が四泳法を泳ぎタイムを競い合いました。子供達全員がライバルでしたが、他の子が泳いでいる時の応援も懸命にする子供達。この夏一緒に頑張った仲間にお互い応援する光景は、那須学園としての団結を見たようで清々しかったです。タイムは人それぞれでしたが、概ね自己ベストで泳ぐことができました。毎日一生懸命練習で泳ぎ、大会ですっかりと泳ぎ切った子供達の笑顔は輝いていました。

#### ☆生き物調査

九月四日・十月二四日

九月と十月に沢環境保全会の活動の一環として、地域の方々と一緒に那須学園内に流れる小川で、魚や虫など水辺の生物を捕まえて数や種類などを調べる生き物調査を行いました。学園の子供だけでなく、沢環境保全会の方々と地域の大人や子供達も一緒に小川に入り、楽しく調査

を行いました。子供達は服が水に濡れることをおかまいなしに川に入っ  
ていき、服がびしょびしょになりな  
がら手づかみで魚などの生き物を捕  
りにいっていました。また、今年度  
は県民の森から職員を派遣してい  
た、水質調査や生き物についての  
説明をしていただきました。なんと、  
学園の小川にはカジカや鮎、そし  
てなまず、その他きれいな水の中  
に生息しない生き物などもあり、  
とても大切にしていかなければなら  
ない川だとわかりました。

## ☆学園祭

九月二五日

九月二五日（金）に学園祭を開催  
しました。例年学園祭では地域の方  
や関係機関の方々を招待して交流を  
深め、子供達の成長した姿を見せる  
ために開かれているのですが、今年  
度は新型コロナウイルス感染症拡大  
防止のため、園内で何度も協議をし  
た結果、地域の方や関係者の方を招  
待しての開催を見送る決断を行いま  
した。しかし、様々なイベントが中  
止になった今年度、なんとか子供達  
の活躍する場を提供したいという思  
いから、毎日指導してくださる分校  
や学園の先生方、子供達がおもてな  
ししようという目標を設定し実施し  
ました。子供達で自由に話し合い模  
擬店を決め、学園祭を作り上げるこ  
とを目標に、計画、準備を進めまし  
た。一寮はたこ焼きと輪投げ、二寮

はみそこんにやくとかき氷、ストラ  
ックアウト、女子寮はカリカリチー  
ズとタピオカドリンクに決定。当日  
は新型コロナウイルス感染症予防対  
策を十分にして実施しました。その  
ため、例年のような大声での接客は  
できませんでしたが、各模擬店では、  
子供達が作成したポスターや飾り付  
け、一生懸命に接客する姿が見られ、  
学園の先生をおもてなしすることが  
できました。学園祭の最後は子供達  
だけで演奏する吹奏楽の発表を  
し、日頃の職員への感謝の気持ちを  
十分見せてくれました。今年度は例  
年と異なる学園祭の実施となりまし  
たが、和やかな雰囲気の中で模擬店  
を楽しみ、気持ちもお腹も満たされ  
た最高の一日になったと思います。

## ☆はざかけ

十月三日、十月一三日

十月三日（土）、十月一三日（火）  
に稲刈りと田んぼのはざ掛けを全寮  
合同作業で行いました。

はざかけ作業はまず大きな竹や  
重い木の杭を田んぼまで運ぶ作業か  
ら始まり、稲を干す台を作ります。  
ぬかるんだ田んぼの中で、丈夫な台  
を作り上げるのは一苦労です。丈夫  
な台を作らないと台風や強い風で倒  
れてしまうので、職員も子供達も必  
死になって組み上げます。紐できつ  
く縛り上げる工程が難しく、子供達  
は何度も何度もやり直し・・・悪  
戦苦闘しながら頑張っていました。

次にその台に刈り終えた稲をきれいに  
並べて干していきます。両手いっ  
ぱいに稲を持ち、歩きづらい田んぼ  
の中を必死に移動します。台に一列  
掛け終えると、次は二段目に掛けま  
す。背の大きい子が上に掛けるなど、  
児童達は協力して作業を行っていま  
した。最後に落ちていた穂を拾う作  
業です。前半の肉体労働が堪えたの  
か、この作業になるとどうしても集  
中力が続きません。最後まで根気強  
く取り組む力が必要な作業でした。  
この地域の伝統的な稲作を経験す  
ことで、稲作への興味や食べ物への  
ありがたみを感じてくれたことと思  
います。十一月には学園で収穫した  
餅米を使って、お餅つきを行います。  
大変な作業を経験した分、きつと今  
まで食べたお餅の中でも最高に美味  
しいお餅になることでしょう。

## 今後の予定

『新型コロナウイルスのため、実  
施するかどうか、どのように実施す  
るか、実施日など、詳細については  
未定』

十一月 二〇日 収穫感謝祭

十二月 二二日 クリスマス会

一月 八日 新年昼食会  
席書大会

一月 十五日 第一回

二二日 第二回 スキー教室

スキー教室

二月 四日 立志式

二月 一二日 園内 マラソン大会

## 編集後記

コロナ禍に加え、朝晩の肌  
寒さに季節の移ろいを感じる  
今日この頃ですが、那須学  
園の子供達は変わらずいろ  
いろな活動に熱心に励んで  
います。今までのいろいろな方  
に参加していただいていた  
行事も、このような状況のた  
め縮小して学園内での実施  
となっておりますが、子供も大  
人も元気に頑張っています。  
応援していただけたらと思  
います。  
風邪をひきやすい季節で  
もあるのですが、皆様もお身体に  
は十分気をつけてお過ごし  
ください。

育成課

石口・石田・松田・片岡